Abbau d.
ZEMENT.

附圖説明

- (A) D.P=象牙質粉 ×=穿孔部位
D=象牙質 N.P=壊死セル齒髓組織
- (B) B'ノ擴大圖
L.P=生活髓
H.S=石灰沈着物
A.d.D=象牙質壁ノ吸收機轉
- (C) ×=根端組織中=覺醒セル上皮索
B.G=細胞浸潤ヲ蒙レル結締組織纖維
B=白亞質
- (D) ×部ノ抗大
上皮細胞ハ網様萎縮ニ陥リ上皮ノ發育ノ緩漫ナルト云フヨリ増殖鎮靜ノ形態ヲトル

耳下腺摘出ニヨル各臓器ノ變化ニ就テ

(第一回報告：甲狀腺、子宮、卵巢)

九州齒科醫學專門學校病理學教室(指導、永松博士)

大 曲 靖 夫

Ueber die Veränderungen der jeden Organe nach
der Exstirpation der Glandula parotis.

(Erste Mitteilung: gl. thyreoidea, Uterus, Ovarium)

Aus dem pathologischen Laboratorium der Kyushu Zahnärztlichen
Hochschule zu Fukuoka, Japan. [Direktor, Prof. K. Nagamatsu.]

Von

Dr. Yasuo Ohmagari.

内 容 目 次

第一章 緒 言

第二章 實 驗

第一項 實驗材料

第二項 實驗方法

第三章 實驗成績

第一項 飼育中ノ體重ノ變化

第二項 解剖並ニ組織學的所見

第四章 總括並ニ考按

第一項 體 重

第二項 甲 狀 腺

第三項 子 宮

第四項 卵 巢

第五章 結 論

参 考 文 献

附圖説明

附 圖

第一章 緒 言

唾液腺ハ外分泌作用ヲ營ンデ唾液ヲ分泌スル以外ニ内分泌作用ヲモ營ムト云ハレテキル。Hemmeter 氏ハ唾液腺「エキス」ヲ注射スルト胃液ノ分泌ガ高マル。即チ唾液腺ハ胃液分泌ヲ促進スルガ如キ「ホルモン」ヲ産出スト發表シ、又 Golzanitzki 氏ハ唾液腺ヲ完全ニ剔出スルトキハ生命ニ危険ヲ生ズルモノデアル故ニ、唾液腺ハ生命維持上絶対ニ肝要ナル「ホルモン」ヲ産出スト説キ、本邦ニ於テハ土屋氏ハ唾液腺特ニ耳下腺ハ生命維持上甚ダ重要ナル器管ニシテ、脾臓、睾丸ト非常ニ密接ナル關係ヲ有スルモノナリト云ツテキル。又内村氏モ耳下腺及ヒ顎下腺ハ脾臓ノ「ランゲルハンス」氏島、甲狀腺、肝臓「グリコーゲン」等ニ對シ互ニ拮抗的作用スル如キ内分泌作用ヲ營ムモノデアルト研究發表シテキル。亦「ウキルソン」研究所ニテハ牛ノ耳下腺ヨリ製シタル乾燥物質ハ月經痛、異常月經、流行性耳下腺炎ニ効力顯著ナリトシ製藥シテキル。先ニ永松氏ハ妊婦ノ唾液ヲ幼若雌性家兎ニ注射シ其ノ卵巢、子宮ニ生物學的變化ヲ認メ妊婦ノ早期診斷ヲナスコトニ成功セリ。

ソノ他月經期ニアル婦人ノ耳下腺及ヒ甲狀腺ノ腫脹スルコト、或ハ唾液ノ分泌ノ増減スルコトハ屢々認メラレルコトデ、又アル種ノ動物ニアリテハソノ交尾期ニ甲狀腺ノ腫脹ト共ニ唾液腺ノ腫脹ヲ起シ、就中駱駝ニ於テハ性的興奮ノ際ニ多量ノ唾液流出ガ起ルコトモ考フ可キ事デアル。亦「ムンプス」(流行性耳下腺炎)ニ於ケル睾丸炎ハツキモノデ男性患者ノ60%ニ起リ、殊ニ之等ノ患者ハ例外ナシニ性的ニ成熟セル者ノミニ限ラレテキル。

亦最近東大ノ緒方氏等ノ研究ニヨレバ耳下腺、顎下腺ニハ内分泌機能ガアル。即チ唾液ハ口中ニノミ排泄セラレルモノデハナク、一部ハ血液中ニ唾液腺條紋部ト云フ處ヲ通ツテ吸收サレテユクト云フ結論ニ達シテキル。亦氏ハコノ事實ト糖尿病トガ如何ナル關係ヲ有スルカラ「ガルヤニツキー」ノ實驗ト比較シテキル。即チ「ガルヤニツキー」ハ穴ノ兩耳下腺排泄管ヲ結紮シテ血液中ノ葡萄糖即チ血糖ガ少クナツタ事ヲ認メ、亦人間糖尿病患者ニ就テモ同様操作シタ處糖尿ハ減ジ好結果ヲ示シタ事ヲ認メテキル。彼ハコノ事カラシテ耳下腺ヲ結紮シタ爲唾液ハ口中ニ分泌サレルコトハ無クナリ、隨ツテ唾液ノ内分泌ガ非常ニ高マリ、耳下腺ヨリ「インシュリン」ニ代ル如キアル種ノ内分泌物ガ出テ糖尿病ガヨクナルノダト考ヘタノデアル。緒方氏等ハ始メ犬ノ脾臓ヲ剔出シテ犬ヲ糖尿病ニ患カラセテカラソノ變化ヲ實驗シ、次ニ唾液腺ヲ剔出シテ、或ハ唾液輸出管ヲ結紮シテ實驗シタ。ソノ結果唾液腺ト脾臓トノ兩者間ノ密接ナル關係ガ明カニサレ、更ニ内分泌機能ヲ有スル腦下垂體前葉ガコノ兩者間ニ介在シテ、コノ三者ハ相互ニ内分泌ニ就イテ三角關係ニアルモノダト説イテキル。

之等ノ内分泌説＝對シ近藤、藤平氏ハ唾液腺ノ機能＝關スル研究ヲ發表シ、耳下腺又ハ顎下腺ハ外分泌作用以外＝内分泌作用ヲ認ムルコト能ハズト否定説ヲ立テ、キル。

次ニ生殖腺ト甲状腺トノ關係モ今日尙詳デナク、或者ハ生殖腺ノ摘出後甲状腺ノ肥大ヲ見、他ノ者ハ萎縮ヲ見タト云ツテキル。

Bokelmann O. U. 氏ハ去勢白鼠ト非去勢白鼠トノ甲状腺ノ沃度含有量及ビ重量ヲ比較セン＝前者ハ去勢白鼠ガ後者ハ非去勢白鼠ガ大ナリト云ツテキル。

又甲状腺劑ノ卵巢機能＝及ボス影響＝關シテモ古クカラ研究サレ未ダ満足ナ結果ハ無イ様デアルガ一般＝甲状腺ト卵巢トハ互ニ拮抗的關係＝アル様デアルト云ハレテキル。

以上諸家ノ研究＝依ツテ見テモ、唾液腺ト内分泌腺＝耳下腺ト甲状腺、生殖腺ノ關係ハ極メテ微妙ナル關聯ガアリ亦極メテ興味深キ問題ノ様＝觀察サル。

余ハ先ヅ次ノ如キ材料、方法ノ下ニ「ラツテ」ノ耳下腺ヲ摘出シテ生殖器、甲状腺＝如何ナル變化ガ起ルモノナルカヲ検討スベク本實驗ヲ行ヘリ。尙第二回報告トシテハ、口腔、齒牙等ヲ觀察スル豫定ナリ。

第二章 實 驗

第一項 實 驗 材 料

本實驗ヲ行フ＝當リ余ハ檢材トシテハ總テ壯年期ト思ハレル生後一ケ年半位ビノ可及的同腹ノ雌性「ラツテ」Albinorat, *Mus norvegicus albinus* ヲ選ビタリ。實驗例 21 例、對照 3 例ニシテ、♀ 18 匹、♂ 4 匹ナリ。之ヲ同腹一群トシ大體 4 群ニ分テリ。

即チ第一群 7 匹〔♂ 3 匹、♀ 4 匹〕、第二群 6 匹〔♂ 1 匹、♀ 5 匹〕、第三群 5 匹〔♀〕、第四群 6 匹〔♀〕ナリ。而シテ之等ハ總テ各個隔離飼育ス。

對照トシテハ第一、二、四群中ヨリ各一匹宛飼育セリ。飼育期間ハ 2 週間乃至 5 週間ナリ。

實驗動物ハ耳下腺摘出後、短キハ 1 日乃至 3 日間、長キハ 6 ケ月間ニ亘リ飼育セル後撲殺シ檢索セリ。

第二項 實 驗 方 法

「クロ、ホルム・エーテル」混合麻醉ヲ行ヒタル後、解剖臺上ニテ四肢ヲ固定シ、耳下腺部ノ毳毛ヲ剃去シ、嚴重ナル消毒ノ元ニ耳殼部ヨリ口角部ノ方向ヘ約 1—1.5 c.m. 皮膚切開ヲナシ、併セテ該部筋膜ヲモ切開シ、創口兩側ヲ舉上シテ耳下腺ヲ完全ニ摘出セリ。而ル後創口ヲ縫合シ沃度丁幾ノ塗布ヲナセル後、反對側モ同様ノ手術ヲ行ヘリ。手術後 3 日乃至 5 日ニシテ創口ノ治癒セルヲ待チテ拔糸ヲ行ヘリ。

第三章 實 驗 成 績

第一項 飼育中ノ體重ノ變化

體重ハ手術前ニ一度秤リタル後、手術後 10 日間ハ毎日、ソノ後ハ隔日又ハ 3. 4 日置キニ秤リタリ。

體重ノ變化ヲ見ルニ、試験動物ハ長キハ半ケ年ニ亙ル比較的長期間飼育サレシ故、飼育期間中ノ時候ノ状態ニヨリ、或ハ増齡等ガ少クトモ或一程度迄ハ體重ニ影響サレルモノト考ヘラレルガ、大體ニ於テ飼育期間 2 週間以下ノ分ハ、手術當時ヨリ撲殺當時ハ體重減少ヲ見、ソレ以上長期間飼育ノ分ハ體重増加ヲ見タ。(第二表参照)

之ハ手術ノ結果ノ衰弱ニヨル變化ト考ヘラル。次表ハ手術後ノ飼育期間 3 週間以上ノ分ノ體重統計表ニシテ、體重ハ何レモ早朝投食前ニ秤リタルモノナリ。

第 一 表

動物番號	動物分類	性	飼育日數	體 重 (瓦)		
				手術當時	撲殺當時	増 減 度
Nr. 1	第 1 群	♂	6 ヶ月	220.0	240.0	+ 20.0
Nr. 2	〃	♀	2 週	185.0	180.0	- 5.0
Nr. 3	〃	♂	6 ヶ月	185.0	240.0	+ 55.0
Nr. 4	〃	♀	5 週	180.0	170.0	- 10.0
Nr. 5	第 2 群	♀	〃	190.0	200.0	+ 10.0
Nr. 6	第 1 群	♂	6 ヶ月	200.0	235.0	+ 35.0
Nr. 7	第 2 群	♀	5 週	200.0	210.0	+ 10.0
Nr. 8	第 1 群	♂	6 ヶ月	220.0	270.0	+ 50.0
Nr. 9	第 2 群	♀	1 日	180.0	170.0	- 10.0
Nr. 10	〃	♀	3 週	120.0	120.0	± 0
Nr. 11	〃	♀	〃	130.0	130.0	± 0
Nr. 12	第 3 群	♀	〃	115.0	120.0	+ 5.0
Nr. 13	〃	♀	4 週	150.0	130.0	- 20.0
Nr. 14	〃	♀	〃	135.0	105.0	- 30.0
Nr. 15	〃	♀	〃	150.0	130.0	- 20.0
Nr. 16	〃	♀	3 日	190.0	170.0	- 20.0
Nr. 17	第 4 群	♀	〃	175.0	160.0	- 15.0

Nr. 18	第 4 群	♀	1 週	170.0	170.0	± 0
Nr. 19	〃	♀	〃	170.0	165.0	- 5.0
Nr. 20	〃	♀	3 週	145.0	140.0	- 5.0
Nr. 21	〃	♀	2 週	150.0	135.0	- 15.0
Nr. 22	第 1 群	♀	4 週	155.0	165.0	+ 10.0
Nr. 23	第 2 群	♀	5 週	100.0	100.0	± 0
Nr. 24	第 4 群	♀	2 週	125.0	120.0	- 5.0

但、Nr. 22, 23, 24 ハ對照例ナリ。

第 二 表

上述ノ體重表ニ示スガ如ク、手術後飼育期間 3 週間以上ノ分ノ 3 週間迄ノ平均數ノ變化ヲ觀察スルニ、手術後 2 日間ハ急激ニ、第 3 日目ハ緩慢ニ下降セル後、ソノ後ハ遂次上昇シ、第 9 日目頃ニ於テ最高トナリ、後再び手術前ノ體重ニ復歸ス。ソノ後再び僅カニ下降スルモ第 12 日目頃ヨリハ一定體重トナル。

之等手術後約 10 日間ニ亘ル比較的急激ナル體重ノ變化ハ、恐ラク耳下腺缺損ソノモノ、爲ニ生ジタル所謂耳下腺缺損症狀ニハ非ズシテ、寧ロ手術ソノモノ、影響ニヨル該動物ノ衰弱、食慾不振及ビ恢復期ニ於ケル食慾亢進ノ結果生ジタル變化ナラント推察セラル。

第二項 解剖並ニ組織學的所見

實驗「ラツテ」ヲ「クロ、ホルム・エーテル」混合麻醉ノ元ニ致死セシメ、甲状腺並ニ子宮卵巣ヲ摘出シ 10 %「フオルマリン」液ニテ固定ス。コノ際ノ解剖所見トシテハ次表並ニ後述ノ如シ。

10%「フオルマリン」液ニテ固定シタル検材ハ常法ニヨリ「パラフィン」切片標本ヲ作成シ、
「ヘマトキシリン、エオデン」複染色、或ハ「ズダン」III 染色ヲ施セリ。

而シテソノ解剖並ニ組織學的所見次ノ如シ。

第一例

第一群；♂；飼育期間 6 ヶ月間；體重、手術當時 220gr.、撲殺當時 20.0gr. 増加。

解剖 所見：

解剖所見トシテハ耳下腺摘出部ヲ檢スルニ之ハ完全ニ治癒ス。小腸部ニ小サキ充血部一ヶ所アリ。肝臓ニハ小豆大ノ白色腫瘍様物アリテソノ表面ヲ脂肪色ノ薄層ガ被フ。之ヲ切開スルト
中ヨリ寄生蟲ラシキモノ出ヅ。之ハ恐ラク肝臓ニ寄生スル肝胚ナラント考ヘラル。攝護腺部ヲ
見ルニ之ハ比較的肥大シテイル。亦甲状腺モ甚ダ肥大シテイル。

組織學的所見：

甲 状 腺

甲状腺ノ變化ヲ見ルニ一般ニ飼育期間 2 週間以内ノモノニハ著變ナク、2 週間以上ノモノニ
於テハ殆ンド同一變化ヲ認ム。依ツテ甲状腺ノ組織學的變化ニ就イテハ茲ニ概括シテ述ベル事
ニスル。

即チ甲状腺ハ組織的ニハ一般ニ退行的傾向ヲ有スルモノ、如ク、濾胞 Follikel ノ發育ハ正
常ノモノニ比較シテ少々不良ニシテ、濾胞内腔壁ニ排列セル骸子細胞 Kubisches Epithel ハ原
形質並ニ核ノ容積ヲ著シク減少シ、且核ノ偏在ヲ來シ、「ヘマトキシリン」ニハ濃染シ、排列ハ
不正トナリ、所謂退行的變性ヲ認メル事ガ出來ル。

亦骨發育、神経系統ノ發育或ハ循環系統ニ關係スル内分泌物デアルト云ハレル濾胞内容物タ
ル膠様物質ハ前述骸子上皮細胞ヨリ分泌サレルニ關ラズ充滿状態ヲ呈セルモノガ多い。

膠様物質内ニハ「ホルモン」ヲ外方ヘ導ク導管ナク、一般ニ小胞周圍ニアル血管並ニ淋巴管ガ
ソノ役目ヲ演ズルト云ハレテキルガ、之等血管ノ状態ヲ觀ルニ之ハ健康甲状腺ノ夫ニ比較シテ
甚ダ少クナリ、殊ニ耳下腺摘出後長期間飼育ノモノ程コノ傾向著明ナル如ク觀察サル。亦尙血
管内ニ於ケル赤血球ハ概シテ染色不良ナリ。

尙、甲状腺ヲ全般ニ亙リ比較スルニ、表在部ニ於テハ比較的退行現象著明ニシテ脂肪滴浸潤シ
テ組織ハ網狀トナリ、萎縮セル部分ヲ認ム。殊ニ實驗例第 5 例ニ於テハコノ傾向著明ニシテ、
又血管ハ組織内ニ殆ンド認メラレズ。

第二例

第一群；♀；飼育期間、2 週間；體重、手術當時 185gr.、撲殺當時 5.0gr. 減少。

解剖 所見：

耳下腺摘出手術後他ノ「ラツテ」ヨリ鼻部ニ可成リ重キ咬傷ヲ受ケシモ、コノ咬傷部並ニ手術

部＝ハ何等感染ノ模様ナシ。然ル＝解剖所見トシテハ大腸、腎臓、腹膜腔部表面＝ハ暗褐色ノ潰瘍形成ヲ見ル。子宮ハ鬱血状態＝アルモノ、如シ。

組織學の所見：

子宮並＝卵巣所見ハ後述スル第4例＝全ク類似スルモ、只々本例＝於テハ脂肪ノ出現比較的少シ。(第4例参照)

第三例

第一群；♂；飼育期間、6ヶ月間；體重、手術當時、185gr., 撲殺當時 5.5gr 増加。

解剖所見：

手術創ハ完全治癒ス。小腸ハ第一例ノ如ク充血部ヲ一部認ム。肝臓＝於テハ第一例ト同ジク櫻實大ノ腫瘍様物アリ。之ヨリ肝胚二箇ヲ發見ス。

第四例

第一群；♀；飼育期間、5間週；體重、手術當時 180gr., 撲殺當時 10gr. 減少。

解剖所見：

手術創ハ完全＝治癒ス。左側ハ正常ナルモ右腋窩淋巴腺甚ダ肥大ス。小腸ノ一部＝充血ラシキ處アリ。

甲状腺ハ甚ダ大ナリ。

子宮ハ鬱血シ、附近一帯＝脂肪蓄積アリ。而シテ子宮ハ肥大ス。

卵巣ハ桑實狀＝肥大ス。右側＝比シ左側卵巣ハ稍々大ナルガ如シ。

組織學の所見：

子宮ノ組織學の所見トシテハ、組織内へ脂肪增生シ、間質結締織ハ纖維様變性ヲ來シ細胞ハ全ク退行シテ纖維化シテキル。子宮腺細胞ハ破壊サレ、殊ニ子宮腺細胞周圍＝ハ脂肪物質ノ出現甚シク、處＝ヨリテハ色素顆粒細胞 Pigmentkörnchenzellen ラシキモノヲ認ム。

血管ハ處々＝認メラレルガ、赤血球ハ相互密接シテ圓壩狀トナリ各個ノ状態ヲ區別スベカラザル状態＝至ルモノ多シ。即チ血液ハ血行靜止状態 Blutstockung, Stasis ニアリ。即チ子宮ハ退行的變性ノ經過ヲタドリツ、アルモノ、如シ。

卵巣ノ組織學的變化モ甲状腺ト略々大同小異ノ變性ヲ來シテキル。

即チ卵巣モ亦子宮同様＝脂肪物質ニテ周圍ヲ圍繞セラレ脂肪中ニ埋伏セルガ如キ状態ヲ呈シテキル。卵巣ノ血管ハ比較的鬱血状態ヲ呈ス。卵胞ノ大サハ健態ノ卵胞ト大差ナク濾胞細胞並＝濾胞液ニモ著變ナシ。

第五例

第二群；♀；飼育期間、5週間；體重、手術當時 200gr., 撲殺當時 10.0gr. 増加。

解剖所見：

手術創ハ完全ニ治癒スルモ、左側顎下腺部皮膚ニ原因不明ノ潰瘍アリ。

腎臓ハ左側稍々大ナリ。肝臓ヨリ肝胚2箇ヲ發見ス。肺臓ハ肺動靜脈ノ出入スル所謂肺門附近ニ於テ暗黒色ノ鬱血部ヲ見ル。

甲状腺ハ大ナリ。子宮ハ鬱血シ、卵巢ハ桑實狀ニ肥大シ稍々充血セル感アリ。左側ガ右側卵巢ヨリ稍々大サ大ナリ。

組織學的所見：

子宮腺細胞ハ脂肪浸潤ノ爲周圍ニ壓迫サレ、排列狀態ハ不正トナリ、細胞原形質内ニハ大小不同ノ脂肪滴ラシキモノヲ認ム。

卵巢ノ所見ハ前述第4例ト殆ンド變ルコトナシ。

第 六 例

第一群；♂；飼育期間、6ヶ月間；體重、手術當時 200gr., 撲殺當時 35gr. 増加。

解剖 所見：

手術創ハ完全ニ治癒ス。肝臓ニハ肝胚ニ依ル大豆大ノ腫瘍様物アリ。小腸部ニハ輕度ノ充血ヲ見ル。肺臓ハ肉眼的ニ白色蠟様光澤アル變性部散在ス。前左膊關節部甚ダ肥大ス。之ハ骨折ニ因スルモノト考ヘラル。

甲状腺ハ稍々肥大ス。

第 七 例

第二群；♀；飼育期間、5週間；體重、手術當時 200gr., 撲殺當時 10.0gr. 増加。

解剖 所見：

手術創ハ完全ニ治癒ス。劍狀突起甚ダ大ナリ。

甲状腺ハ稍々肥大ス。子宮、卵巢共ニ充血ヲ見ル。之等子宮、卵巢附近ニハ比較的多量ノ脂肪蓄積ス。(第2圖參照)

組織學的所見：

第12圖ニ示スガ如ク腺細胞ハ退行シツ、アリ、間質結締組織モ纖維化シツ、アリ。脂肪滴ハ組織内ノ處々ヘ點在ス。血管ハ處々ニ血球ヲ充滿靜止セル狀態ニテ散在ス。

卵巢ノ血管ハ充血狀態ニアリ。

第 八 例

第一群；♂；飼育期間、6ヶ月間；體重、手術當時 220.0gr., 撲殺當時 50.0gr. 増加。

解剖 所見：

手術創ハ完全ニ治癒ス。肺臓ニハ第6例ヨリ輕度ナ白色蠟様光澤部ヲ散見ス。攝護腺ノ大サハ正常ナリ。

甲状腺ニハ著變ヲ認メズ。

第九例

第二群；♀；飼育期間、24 時間；體重、手術當時 180gr., 撲殺當時 10.0gr. 減少。

解剖 所見：

手術創ハ血餅ニテ充タサル。他ニ特記スベキ事項ナシ。

組織學的所見：

各臓器ニ著變ヲ認メズ。

第十例

第二群；♀；飼育期間、3 週間；體重、手術當時 120gr., 撲殺當時、増減ナシ。

解剖 所見：

手術創ハ完全ニ治癒ス。卵巢殊ニ右卵巢ハ桑實狀赤塊ニ充血シ且甚ダ肥大ス。子宮モ比較的充血怒脹ス。コノ附近一面ニハ脂肪ノ蓄積顯著ナリ。(第3圖参照)

甲状腺ハ稍々肥大ス。

組織學的所見：

子宮並ニ卵巢ニハ第4例ヨリ高度ノ脂肪浸潤並ニ充血アリ。

第十一例

第二群；♀；飼育期間、3 週間；體重、手術當時 130gr., 撲殺當時、増減ナシ。

解剖 所見：

第10例ト殆ンド同一ナルモ、本例ニ於テハ第4圖ニ示スガ如ク、子宮ノ充血最モ著明ナリ
甲状腺ハ稍々肥大ス。

組織學的所見：

第10例ト同様ニ脂肪浸潤、腺細胞ノ萎縮等アリ。殊ニ腺細胞ノ周圍ニハ脂肪増生シ細胞ハ壓縮セラレ、核ハ邊在シテキル。

卵巢所見モ第10例同様ナリ。

第十二例

第三群；♀；飼育期間、3 週間；體重、手術當時 115.0gr., 撲殺當時、5.0gr. 増加。

解剖 所見：

手術創ハ完全ニ治癒ス。結腸部ニ糞停滯シテキル爲腸及ビ胃ハ瓦斯充滿ス。腸ノ色ハ黃色ヲ呈ス。食道ヨリ粘調ナル黃色汚物ガ解剖時ニ出ル。甲状腺ハ著變ナシ。

子宮、卵巢ハ甚シク萎縮シ、殊ニ卵巢ハ殆ンド認メ難キマデニ萎縮ス。周圍ニハ脂肪物質ハ殆ンド認メラレズ。(第5圖参照)

組織學的所見：

子宮ハ第13圖ニ示スガ如ク甚ダシク萎縮シ、間質結締組織モ同様萎縮シ之等ハ處ニヨリテハ

核ハ既＝崩壊 Karyolysis スル部分ヲ認ム。血管ハ處々＝見ラレ、貧血状態ナルガ如シ。

卵巢ハ前例＝類似ス。

第十三例

第三群；♀；飼育期間、4週間；體重、手術當時 135.0gr., 撲殺當時 20.0gr. 減少。

第十四例

第三群；♀；飼育期間、4四週間；體重、手術當時 135.0gr., 撲殺當時 30.0gr. 減少。

第13例並＝第14例共＝解剖所見＝ハ著變ナク、甲状腺ノミ稍々肥大ス。組織的所見ハ第七例＝類似ス。

第十五例

第三群；♀；飼育期間、4週間；體重、手術當時 150.0gr., 撲殺當時 20.0gr. 減少。

解剖所見：

手術割ハ完全＝治癒ス。子宮卵巢共＝肥大且充血ス。殊＝左側卵巢ハ甚シ。周圍ノ脂肪組織ノ出現比較的甚シ。甲状腺ハ肥大ス。

組織學的所見：

前述ノモノト大差ナキモ子宮＝於テハ出血竈＝於ケル「フオルマリン」顆粒 Formalin Pigment ヲ認ム。

卵巢ハ充血ノ外、胞體內＝石灰沈着部アリ。

第十六例

第三群；♀；飼育期間、3日間；體重、手術當時 190.0gr., 撲殺當時 20.0gr. 減少。

第十七例

第四群；♀；飼育期間、3日間；體重、手術當時 175.0gr., 撲殺當時 15.0gr. 減少。

解剖所見：

第17例、第16例共＝手術創ハ良好ナル経過ヲツテキル。甲状腺、子宮、卵巢＝ハ著變ナシ。

組織學的所見：

一般＝兩例共著變ナシ。

第十八例

第四群；♀；飼育期間、1週間；體重、手術當時 170.0gr., 撲殺當時増減ナシ。

第十九例

第四群；♀；飼育期間 1週間；體重、手術當時 170.0gr., 撲殺當時 5.0gr. 減少。

第二十例

第四群；♀；飼育期間、3週間；體重、手術當時 145.0gr., 撲殺當時 5.0gr. 減少。

第二十一例

第四群；♀；飼育期間、2 週間；體重、手術當時 150.0gr.，撲殺當時 15.0gr. 減少。

解剖 所見：

第18 例ヨリ本例迄比較スルニ、一般ニ著變無キモ只々第 20 例ニ於テ子宮附近一帯ニ脂肪蓄積シ、子宮ハ稍々肥大セル感アリ。

手術創ハ何レモ完全ニ治癒シテキル。甲状腺ニハ何レモ著變ナシ。

組織學の所見：

本所見ニ於テモ只々第 20 例ニ於テ子宮、卵巢ハ脂肪ニヨリ圍繞セラレ且子宮内血管ハ極メテ輕度ノ充血ヲ呈セルノミ。卵巢ニハ著變ヲ認メズ。

第四章 總括並ニ考按

第一項 體 重

前述セル如ク體重ハ手術後 2 日間ハ急激ニ、第 3 日目ハ緩慢ニ下降シ、後第 9 日迄逐次上昇シ後再ビ手術前ノ體重ニ稍々下降シ復歸ス。

即チコノ變化ヲ見ルニ最初ノ第 2 日間ハ手術ニヨル該動物ノ衰弱、食慾不振、ソノ後ノ上昇ハ恢復期ニ於ケル體重増加並ニ食慾亢進ノ結果ガ多分ニ影響サレ、耳下腺摘出ニヨル耳腺ソノモノ、欠損症狀ニハ非ザルモノト觀察サル。亦半ケ年ニモ亙ル長期間飼育ノ分ノ體重ノ變化ハ多分ニ時候ノ變化、増齡等ヲ考ニ入ルベキデアル。

第二項 甲 狀 腺

甲状腺ハ肉眼的並ニ組織學的ニ何レモ飼育期間 3 週間以内ノ分ニハ著變無キモ、3 週間以上ノ分ハ肉眼的ニ肥大シテキル。

組織學的ニハ濾胞ノ發育ハ稍々不良ニシテ、骸子細胞ハ原形質並ニ核ノ容積ノ減少、且核ノ偏在、排列不正等ヲ來シテキル。濾胞内容物タル膠様物質ハ充滿狀態ヲ呈シ、小胞周圍ノ血管ハ甚ダ少ク、殊ニコノ傾向ハ耳下腺摘出後長期間飼育ノモノ程大ナル如ク觀察サル。之等血管内ノ赤血球ハ概シテ染色不良ナリ。亦甲状腺間質部殊ニ表在部ニ於テハ大小無數ノ脂肪滴ノ浸潤ヲ來シテキル。殊ニ實驗例第 5 例ニ於テコノ傾向最モ大ナリ。即チ組織的ニ甲状腺ハ萎縮狀態ニアリ。

併ルニ肉眼的ニハ甲状腺ハ肥大ヲ見ル。之ハ萎縮セル組織間ニ間質組織即チ脂肪ノ増生ヲ來シ容積ノ増加ヲ來シタルモノト考ヘラル。之レ即チ假性肥大 Pseudohypertrophie ヲ起セルモノナリ。

第三項 子 宮

子宮ノ肉眼的所見トシテハ、飼育期間3週間以内ノモノニテハ一般ニ著變ナキモ、ソレ以上ノモノニテハ周圍附近一帯ニ脂肪蓄積シ、且子宮體ハ充血シ肥大怒張ス。第7例、第11例ガソノ最モ著明ナルモノナリ。

組織學的所見トシテハ、子宮ハ多量ノ脂肪ニテ壓セラレ、組織内ニモ大小不同ノ多數ノ脂肪滴ノ浸潤ヲ見ル。

子宮腺ノ扁平上皮細胞ハ萎縮状態ヲ呈シ、初期ニ於テハ核ハ橢圓形トナリ、尙進ムトキハ半月形トナリ遂ニハ崩壊ノ徑路ヲ辿ルモノ、如シ。處々ニ細胞ノ核崩壊シテ無構造ノ狀ヲ呈スルヲ認ム。

血管ハ一般ニ怒張シテ鬱血状態ヲ呈シ、赤血球ノアルモノハ互ニ密接シテ圓壙狀トナリ各個ノ状態ヲ區別シ得ザル状態ニ至ルモノアリ。即チ血行靜止ノモノヲ認ム。亦處ニヨリテハ出血竈アリ、色素顆粒細胞モ處々ニ認ム。

第四項 卵 巢

卵巢モ亦子宮ト共ニ脂肪中ニ埋伏サレテキテ、飼育期間3週間以上ノモノハ肉眼的ニ見テ一般ニ桑實狀ニ肥大シ且ツ充血ス。殊ニ第7, 10, 11例ハソノ最モ顯著ナルモノナリ。

組織學的所見トシテハ、卵巢モ亦脂肪物質ニヨリテ周圍ヲ圍繞セラル。卵巢ノ血管ハ一般ニ充血状態ヲ呈シ、飼育期間4週程度ノモノニテ最モ著明ナリ。卵胞ノ大サハ健態ノ卵胞ト大差ナク、濾胞細胞並ニ濾胞液ニモ著變ナシ。

總括スレバ、甲状腺、子宮、卵巢並ニ體重ニハ以上ノ如キ變化ヲ招來ス。

内分泌ハ神經組織ト共ニ生物全體ノ調節 Korrelation ニ參與スルモノデ、即チ内分泌物ハ血液及ビ淋巴ニ混ジ遠隔臓器ニ種々ナル作用ヲ及ボス。之等ガ異常ヲ生ズル場合ニ於テハ、其處ニ化學的調節作用ノ攪亂ガ招來シ、全身諸臓器、組織ノ新陳代謝及ビ發育ニ種々ノ變化ガ生ズル。無論其等變化ノ程度、種類ハ臓器、組織ニヨリ異リ、又年齢、性等ニモ左右サレル。

今、或一二ノ内分泌腺ニ異常ヲ生ズルト、其影響ヲ蒙ル者ハ其ト密接ナル關係ノアル他ノ内分泌腺デアル。即チ或種ノ内分泌ノ變化ハ他ノ内分泌腺ノ機能亢進、減退又ハ異常ヲ來シ、形態的ニハ肥大、萎縮、變性ヲ生ズルニ至ル。一般ニ内分泌腺ハ相互ノ間、其機能營爲上化學的ニ密接ナル關係ガアリ、Aノ變化ノ影響ハ直チニB, Cニ及ビ、B, Cハ亦D, Eニ及ブ。即チ所謂 pluriglanduläre Veränderungen ト云ハレル現象ヲトル。吾々ガ之等ヲ剖檢シテ見ル時ハソノ最終變化ノミ見ルノデソノ機能ニ就テハ如何ニモ解釋出來ルノデアル。余ノ今回ノ耳下腺摘出試験ニ於テハ、耳下腺ハ前述セル如ク近來ノ學說ニ於テハ專ラ内分泌説ガ有力ニナツテキ

ルガ、余ハ今回ハ内分泌作用ノ有無ノ問題＝ハ觸レズ、單＝之ノ缺損症狀トシテノ他ノ内分泌＝如何ナル影響ガ及ブカラ検討スル目的ヲ以テ實驗シタノデアルガ、偶然＝モ上述ノ如ク比較的著明ナ内分泌腺即チ甲状腺、子宮、卵巢ノ變化ヲ見タノデアル。

第五章 結 論

「ラツテ」Albinorat ノ耳下腺摘出＝ヨル甲状腺、子宮、卵巢並＝體重ノ變化ハ次ノ如シ。

- 1) 體重ハ耳下腺缺損症狀ソノモノヨリ寧ロ手術ソノモノニヨリ變動スルモノ、如シ。
- 2) 解剖並＝組織學的＝耳下腺摘出後ノ飼育期間 3 週間以上ノモノ＝ハ一般＝變化ヲ認ム。

即チ、

- 3) 甲状腺ハ假性肥大 Pseudohypertrophie ヲ起ス。
- 4) 子宮ハ肉眼的＝充血肥大怒張ス。組織内＝ハ脂肪滴ノ浸潤ヲ見、腺細胞ハ退縮シ、血管ハ血行靜止、鬱血状態ヲ呈スルモノアリ。
- 5) 卵巢モ脂肪＝テ周圍ヲ圍繞セラレ、桑實狀＝肥大且充血セルモノアリ。組織的＝見テ血管ハ一般＝充血状態ヲ呈シ、濾胞＝ハ著變ヲ認メズ。

参 考 文 献

- 1) Arthur, Berg: Über die Verminderung der Speichelsekretion durch Medikamente. (Dtsch monatschr. f. Zahnhlk. 1930).
- 2) George T.: 生殖ト内分泌トノ關係＝關スル 2. 3 ノ文献。(最新治療 9卷5號. 9卷10號. 10卷5號)
- 3) Hans Leicher: Innere Sekretion und Krankheiten des Ohres und der oberen Luft und Speise-Wege, 1928. Seit 73. 97.
- 4) Helen Updegraff: Concerning the presence of sugar in saliva. (Dental Cosmos. 1926 March).
- 5) 生田信保: 胆汁缺乏＝ヨル齒牙發育障礙＝就テ。(齒科學報 35卷4號)
- 6) 伊藤正雄, 早津清二: 女性發情「ホルモン」ノ實驗的効果。(別刷)
- 7) 伊藤正雄, 早津清二: 動物實驗上＝於ケル女性發情「ホルモン」ノ使用方法ト其効果＝就テ。(別刷)
- 8) 伊藤正雄, 早津清二: 犬性週期＝於ケル性器及陰脂垢ノ變化並＝夫及ボス女性發情「ホルモン」ノ影響。(別刷)
- 9) 絹川常二: 唾腺細胞毒素ノ唾腺機能＝及ボス作用並＝其種屬及臓器特異性＝就テ。(東京醫學會雜誌 38卷3號)
- 10) 絹川常二: 健康家兎ノ唾液「アミラーゼ」＝就テ。(齒科學報 29卷5號)
- 11) 黒澤左伸: 口腔唾液腺ノ研究(グリコーゲン＝就テ)(齒科學報 29卷5號)
- 12) 越智: 内分泌學
- 13) Kranz P.: Innere Sekretion in Beziehung zur Zahn und Kieferentwicklung. (Schluss folgt.) [齒科學報 18卷9號]
- 14) 宮崎吉夫: 唾液腺ノ内分泌＝就テ。(日本之齒界, 162號)
- 15) 松岡武次郎: 腎臓分泌＝關スル實驗的補遺。(東京醫事新誌, 1969號)
- 16) 新妻浩: 妊婦尿注射ノ家兎子宮ノ脂肪及ビ藥物感受性並＝妊娠持續＝及ボス影響(腦下垂體「ホルモン」＝就テ知見補遺)(北越醫學會雜誌 48年6號)
- 17) 永松勝海: 唾液＝ヨル妊娠ノ早期診斷＝就テ(九州齒科學會抄録)
- 18) 永井 潜: 内分泌 (1929)
- 19) 緒方知三郎: 唾液腺ノ内分泌機能＝就テ。(日本之齒界, 171號)
- 20) Noroa Santos, Roberto: Ursprung und Bedeutung einiger Bestandteile der Speichelsekretion. (Dtsch Monatschr. f. Zahnhlk. 1930. Heft 9).
- 21) Römer C.: Speicheldrüsen und innere Sekretion. (Fortschr. d. Zahnhlk. 1928. 4 Band.)
- 22) 莊寛: ツオンデツク. アツシュハイム兩氏妊娠診斷法＝關スル研

究（新潟醫科大學病理學教室研究報告，第19輯） 23) 鈴木甚吉：卵巢濾胞「ホルモン」製劑「オバホルモン」ノ産婦人科疾患ニ對スル臨床實驗成績（別刷） 24) 辻寛治：内分泌殊ニ甲状腺及ビ副腎トノ關係（東京醫事新誌，2181號 1146號） 25) 辻寛治：内分泌殊ニ甲状腺及ビ副腎トノ關係ニ就テ（第17回 日本內科學會抄録） 26) 頓宮寛：缺損症狀ヨリ見タル胸腺内分泌機能ニ就テ（東京醫事新誌 1967號）

附 圖 說 明

（略號説明、E＝卵巢，F＝脂肪，U＝子宮）

第 1 圖＝對照第 22 例ノ剖檢所見

第 2 圖＝實驗例第 7 例，飼育期間 5 週間，子宮，卵巢共ニ充血シ稍々肥大ス。附近ニハ脂肪蓄積ス。

第 3 圖＝實驗例第 10 例，飼育期間 3 週間，第 2 圖ト略々同様ナルモ右卵巢ハ特ニ桑實狀ニ肥大充血ス。

第 4 圖＝實驗例第 11 例，飼育期間 3 週間，最モ著明ナル子宮卵巢ノ充血並ニ肥大怒張セルヲ見ル。

第 5 圖＝實驗例第 12 例，飼育期間 3 週間，子宮，卵巢ハ全ク認メ難キ迄ニ退行萎縮シ，附近ニハ脂肪層ハ認メラレズ。

第 6 圖＝實驗例第 15 例，左側卵巢ハ特ニ著明ニ桑實狀ニ肥大且充血ス。

第 7 圖＝甲状腺，對照第 22 例ノ組織の所見。

第 8 圖＝實驗例第 7 例，飼育期間 3 週間，骸子細胞ハ核ハ偏在ヲ來シツ、アリ。

第 9 圖＝實驗例第 1 例，飼育期間 6 ケ月間，最モ著明ナル變化ヲ見ル。

第 10 圖＝實驗例第 5 例，飼育期間 5 週間，甲状腺表在部近クニ於ケル所見，脂肪滴ノ浸潤，骸子細胞ノ退縮等アリ。

第 11 圖＝子宮，對照第 23 例ノ組織の所見。

第 12 圖＝實驗例第 7 例，飼育期間 3 週間，子宮腺細胞並ニ間質ハ崩壊シツ、アリ。

第 13 圖＝實驗例第 12 例，飼育期間 3 週間，最モ高度ニ變化シタルモノナリ。

第 一 圖

第 二 圖

第 三 圖

第 四 圖

第 五 圖

第 六 圖

第 七 圖

第 八 圖

第 九 圖

第 十 圖

第 十 一 圖

第 十 二 圖

第 十 三 圖